

第4分科会

主体的に学び続ける保育者の 在り方

問題提起園 宇宿幼稚園

問題提起者 濱田 瑞月

～保育者個人と園全体の質の向上を目指して～

1 研究課題

子どもとともに育つ保育者

2 研究・研修の視点

幼児期の教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な役割を担っている。子ども一人一人の可能性は、日々の生活の中で出会う環境との相互作用の中で生まれ、その経験のつながりによって拓かれ将来へとつながっていくものである。子どもは、遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力・判断力・表現力を育み、環境を通して、社会と関わる人としての基礎を学び成長していく。

本園の目指す教師像として、「聞法にいそしむ保育者」「子どもと共に育つ保育者」「子どもに学ぶ保育者」「学び続ける保育者」の4つを掲げている。子どもにとって大切な環境の一つとしての保育者は、子どもが発達に必要な経験を得るための環境や、保育者のより深い子ども理解の重要性を認識しておく必要があると考える。子どもは人間性豊かな保育者の中で、安心して自分らしい言動ができ、様々な物事への興味や関心を広げ、自分から何かをしようとする意欲や活力を高めていくことができる。日々の保育の中で保育者は、子どもとの関わりの中から常に自己の保育を振り返り反省し、次の保育に向けて備えることが大切である。その繰り返しの中で、保育者は子どもとの間に信頼関係を育み、良質な保育実践を積み重ね、そのことが自らの資質向上につながっていく。

今回、「主体的に学び続ける保育者の在り方」についての研究・研修にあたり、令和元年度の分科会において出された今後の課題を踏まえ、保育者一人一人の質の向上のための個人研究テーマ設定と全体研究テーマとを融合させながら、本園における教育の質の向上を目指すことにした。

これまで園内研修で取り組んできた「幼稚園教育要領」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」「主体的・対話的で深い学び」を基に、保育者一人一人の資質向上と職員全体の専門性の向上を図っていきたいと考える。

3 主な研究・研修の内容と計画

令和2年度

- 前年度までの研究・研修を振り返り、成果や課題の共通理解を図る。
- 自己評価や自己申告を基にした課題を踏まえ、「個人研究テーマ」を設定し、自分なりの研修方法で実践する。
- 研究保育に「個人研究テーマ」と「全体研究テーマ」両方の観点を入れて実施する。

令和3年度

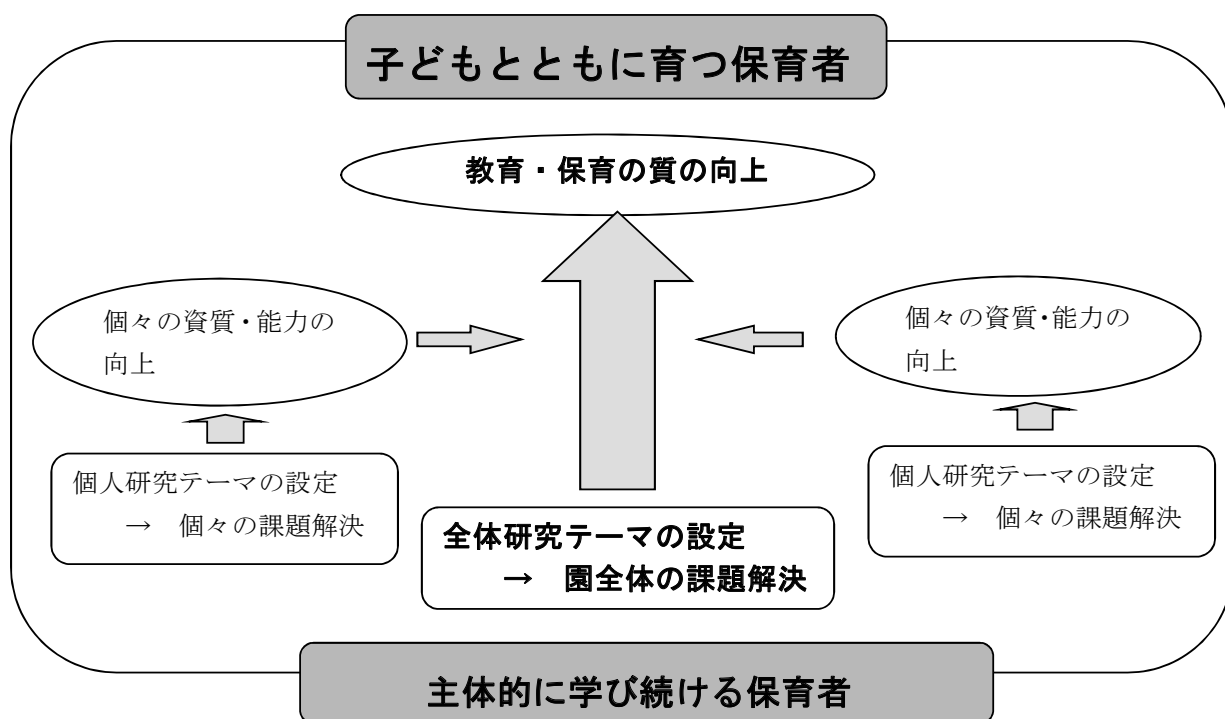
- 主体的に学び続ける保育者の在り方について、令和2年度に取り組んできた研究・研修の結果出てきた「今後の課題」を令和3年度は引き継ぎ、この課題をクリアするための方法について、さらに研究を進める。

4 研究の概要

(1) 研究・研修のテーマのとらえ方

幼児教育は人生を通して学び成長し続ける生涯教育の根幹に位置し、人間形成において本質的な役割を果たしている。そのため、それに携わる私たち保育者は、時代の要請に即応しながら「主体的に学び続ける」ことが求められている。

さて、子どもは、遊びや生活の中で直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力・判断力・表現力を育み、社会の中で生きていく人としての基礎を、環境を通して学び成長していく。私たち保育者も、その環境の重要な担い手であることから、子どもたちの成長を支えるために必要な資質・能力を備えるべく「主体的に学び続ける」ためには、どのようにすればいいかを課題として取り上げることとした。また、それはすなわち、本園の教育・保育の質の向上につながり、研究課題である「子どもとともに育つ保育者」としての姿に近づいていくことになるのではないだろうか。



(2) 研究の内容

主体的に学び続ける保育者であるべく、本研究では、保育者一人一人がそれぞれ自分の研究課題を設定し、「個人研究」としてそれに取り組むとともに園全体で共有していくものとした。「個人研究」とは、各自が取り組みたい課題に対し、考えたこと実践したことを言葉にし、振り返りながらまとめあげることである。つまり、言語化することで考えを明確にし、それを振り返ることで今後への指針となる。そして、まとめることで他者と共有することができるようになる。

また、個人研究テーマと全体研究テーマを意識しながら日常の保育実践を行い、保育者の資質向上と職員全体の専門性向上につながったかどうかを検証する方法を考えていくこととした。

(3) 研究の方法

ア これまでの実践を振り返って成果と課題をまとめ、自分の目指す保育者の姿を見据えて、個人研究テーマを設定する。その際、自分の良さや強みを生かすことも考慮する。

イ 個人研究テーマと全体研究テーマを盛り込んだ研究保育を行い、自分自身の資質向上と保育の向上を検証する。

(4) 実践例

これまでの実践を振り返り、個人研究テーマを設定した。そこで、まず保育者6名が、いかにこれまでの自分を評価し、受け止めているかを表に示す。

	自分の良さ・強み	これまでの実践を振り返っての課題	自分の理想とする保育者の姿
A 教諭	笑顔で毎日過ごす。	<ul style="list-style-type: none"> ・ メリハリのある保育ができていない。 ・ 子どもへの叱り方が難しい。 ・ 子どもの育ちをとらえる視点を広げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人と丁寧に接しながら、クラス全体をまとめられる保育者 ・ その子に合った教育をし、成長させてあげられる保育者
B 教諭	元気で毎日笑顔で過ごす。 最後まで粘り強く取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事の要領がつかめず、期限間近になってから慌てるが多かった。 ・ 分からないことが多く、ペアの先生に頼りすぎてしまっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人一人の良さをたくさん見付けられる保育者 ・ 共に喜んだり笑ったり、気持ちの共有ができる保育者
C 教諭	制作好き。 創意工夫できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども理解 ・ 子どもを正しく理解し、適切な援助ができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人一人の良さを認め伸ばしていく保育者 ・ 一人一人の課題に寄り添い、困り感をなくし、少しでも克服できるようにしていく保育者
D 教諭	子どもや職員、保護者の話を聞いて少しでも不安を解消する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験年数を重ね、保育だけでなく若い職員への指導をどうすればよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人一人に寄り添い、良い部分を伸ばし、本人が困っている部分は一緒に向き合い、共に育ち合える保育者 ・ 職員間でもそれぞれの良い部分を認め合えるような環境を作っていく、初心を忘れない保育者
E 教諭 新任	ポジティブ 忍耐力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないことは、もっと積極的に質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもとともに成長する保育者 ・ 子どもの存在を認める保育者 ・ 保護者から信頼される保育者 ・ 何に対しても一生懸命取り組む保育者
F 教諭 新任	ポジティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自信を持てるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもからも保護者からも先生たちからも信頼される保育者 ・ 先輩の先生みたいに余裕や落ち着きのある保育者

このような課題を受けて、保育者それぞれが自分の研究課題を設定していった。それぞれの研究内容は次の表のとおりである。

	取り組みたいこと	研究テーマ及び具体策	テーマを設定してみて
A 教諭	一人一人の得意分野を伸ばす。 ポートフォリオで成長を伝える。	一人一人の得意分野を伸ばし、成長を伝えることのできるポートフォリオの作り方 ① 子どもの良いところや得意なところを書き留めるノートを準備し、蓄積する。 ② 他の先生方から積極的にアドバイスをいただく。 ③ 幼児期の終わりまでに育って欲しい「10の姿」について研修を深める。 ④ 一人一人の育ちが伝わるような表現の仕方を考える。	普段の様子を見る時に、今までよりも10の姿を意識して見られるようになった。
B 教諭	お店屋さんごっこについて	一人一人が自分の作りたい物をイメージし、楽しく制作活動に取り組むお店屋さんごっこにするための保育者の関わりや環境設定 ① お店の内容に沿った写真や品物を用意し、それを見せることでイメージを持たせる。 ② 一人一人とコミュニケーションを図り、どのような物を作りたいか話をしながらイメージできるように援助する。 ③ 制作活動の導入では、イメージを持たせる工夫をする。 ④ 子どもたちのつぶやきや行動から思いや考えを捉え、遊びを広げることができるような働きかけを工夫する。	自分の苦手なことを明らかにすることで、課題を見付けることができた。
C 教諭	幼児の気付きや学びをつぶさにとらえ、日々の保育に生かしていく実践	保育に生かす子どもの気付きや学びのとらえ方 ① 就学を意識した教材の研究を進め、子どもの気付きや学びの場面を細かくとらえていく。 ② 子どもの発想を生かした制作遊びを展開する中で、教師の手伝いや教材・素材提示を積極的に行いながら、子どもの意欲を引き出し、自ら考え工夫していく。 ③ 身近な素材や材料を使って子どもが遊びに生かせるおもちゃ作りを行う。	子どもの遊びの場面での気付きや学びを、意識して注意深く見るようになった。
D 教諭	自分自身に取り組んできたことや、実際、現場に立ってからの気持ちの変化、今後、なりたい教師像などを伝える機会や場の確保	幼稚園教諭としてのこれまでの取組と自分の成長、そして今後に向けて ① 職員間でのコミュニケーションを密に図り、話しやすい雰囲気作りをする。 ② 保育での出来事を職員に話すことでうまくいったこと、いかなかったこと、その中で見られた子どもの成長を共通理解していく。 ③ 自分自身の経験談を話すことで、共感を得て初心に戻り一緒に取り組めるようにする。	自分の意識が高まり、周りの職員の仕事の状況や取組を見て、自分自身が学ぶべきこと、また、後輩教諭に教えていかなければならないことが少しずつ見えてきている。
E 教諭	自分の課題点、問題点を見付ける工夫の仕方	子どもとともに成長するための日々の振り返り ① 毎日の保育の振り返り・反省をしっかりと。日々の子どもの様子を記録する。 ② よりよい保育の知識を獲得する。	日々の保育や子どもの様子を記録することで、細かい点に気付くことができた。
F 教諭	一人一人の発達の段階に合った援助や子どもたちが楽しいと思える生活を送るための援助の在り方	日々感じたことや先輩の先生方や子どもたちから学んだことを生かして、成長していくための取組 ① 一日一日を振り返り、自分の反省をしっかりと考える。 ② 毎日の出来事をメモする。	子ども一人一人を理解しようとしてより強く思えるようになった。援助の仕方について、先輩に質問したり自分で調べたり勉強する機会が増えた。

次に、具体的に3名の教諭の研究例を取り上げる。

ア テーマをいかに設定したかについての実践例

A教諭の場合

昨年4月に新規採用教員として採用され、初めてポートフォリオの実践に関わり、試行錯誤しながら子ども一人一人のポートフォリオ作りを進めてきた。1学期に1枚ずつ作成し、保護者と子どもの育ちを共有してきた。その中で子どもの成長を実感するとともに、ポートフォリオの可能性を強く感じるようになった。そこで、ポートフォリオに取り組む中で自分自身の課題を明らかにし、個人研究テーマを設定することにした。

(例) 年中児クラス E君のポートフォリオ

【1学期】



★5月17日園外保育★

アスレチックが大好きな〇〇くん。着いた瞬間真っ先にアスレチックに走っていきました。この先にある恐竜の滑り台を滑るために、何度も繰り返し挑戦していました。怖がらずにどんどん進んでいきました！とても楽しそうな様子でした。

【2学期】

★自由遊び★

〇〇ちゃんや〇〇くんと大きな山を作っているところです。1学期よりももっと、みんなで協力したり楽しさを共有したりできるようになりました。最近は、鬼ごっこに夢中です。先日は、ちゅうりぶ組の〇〇ちゃんと砂場で遊ぶ様子も見られました。友達の幅もだんだん広がっています。



【3学期】



★自由遊び★

自由遊びの時間に糸電話を作って、声が聞こえるか実験している様子です。「なんで聞こえないのかなあ〜」「先生、紙コップに穴をあけて！」と試行錯誤しながら作っていました。毎日いろいろなものを発明し、お友達も真似したくなるような面白いおもちゃを作ってくれます！

【実践を振り返っての成果】

- 「成長が分かるように示す」「友達との関わりを示す」の2点を意識して、1年間取り組むことができた。
- 子どもの写真を選ぶ際に一人の写真だけでなく、他児との関わりが分かるような写真も選ぶようにしたことにより、子どもの姿を具体的にとらえることができた。
- 子どもたち一人一人の姿を見つめ、少しの成長も発見できるように取り組めた。

【実践を振り返っての課題】

- ポートフォリオを作成する中で、10の姿のどの部分が成長しているか分かるように示すことができなかった。

1年間ポートフォリオを実践することで、子どもの成長を明確に捉えることができた。そこで次年度は、さらにポートフォリオの良さを生かし、もっと一人一人の成長が分かるような内容にし、得意分野を伸ばすことができるような働きかけをしていきたいと思い、個人研究テーマとして取り組むことにした。

B教諭の場合

採用されて2年目の昨年度は、1年間の行事の流れも理解し、前年度の反省を踏まえて見直しをもって、日々の保育の充実に努めることができた。

個人研究テーマを設定するに当たっては、実際に行った保育実践を基にして、その準備や実践を反省しながら自分の課題を明らかにすることにした。

<令和元年度お店屋さんごっこ> 年長児クラス

- 導入⇒タイヨ一見学（店員さんの服装・お客さんと店員さんのやり取り・店員さんの声掛けを学んだ）



- ここにこんなものがあるよ。
- 私ここにお母さんとお買い物にきたことがあるよ。
- 『いらっしゃいませ』って言ってる！

- 制作⇒店員さんの着ていたエプロンを参考にエプロンを作った。それぞれのグループで協力して制作をした。



- 下の方にポケットを付けたいな～。
- くまさんはどんな顔にしようかな。
- これが作りたいんだけど、何で作る？
- これとこれを組み合わせたら良いかも！
- 先生、Aさんが遊んで何も作ってない！

- 当日⇒見学で学んだことを生かしてお客さんと関わり、お店屋さんごっこを楽しんだ。



- いらっしやいませ～。楽しいですよ。
- 難しい？…じゃあ一緒にやってみようか！（年少児に対して）
- Bコーナーはこちらですよ。いかがですか！

【お店屋さんごっこを実践しての成果】

- どのようなお店屋さんを作りたいか、楽しいお店屋さんにするためには、どんな材料が必要かを考える時間を十分確保することで、子どもたちは意欲的に話し合い、お店屋さんのイメージを持つことができた。また、必要な材料を考え、自主的に集めることができた。
- 様々な材料を準備し、自由に使えるようにしたところ、楽しんで材料を手に取り、豊かな発想で道具作りをする姿が見られた。

【実践を振り返っての課題】

- どのグループも主体的に活動できるようなグループ編成は、どうすればよいのか。
- どの子ども、作りたい物をイメージして楽しく作り上げるためには、どのような働きかけをすればよいのか。

お店屋さんごっこを実践する中で、さらに工夫すれば、どの子どももイメージを豊かに膨らませ、楽しく遊ぶことができるようになるのではないかと考えた。そこで、次年度の研究テーマとして再度お店屋さんごっこの保育実践を取り上げ、より深く質の高い保育づくりに取り組むことにした。

イ テーマを設定し、それに基づいて行った保育実践例

◎ 教諭の場合

【個人テーマ】

子どもの気付きや学びを促すための教材開発

【全体研究テーマ】

主体的・対話的で深い学びの実現

① 題材名 「ペットボトルキャップを使って楽しく遊ぼう！」 年少・年少少児クラス

② ねらい

個人テーマである教材開発を通して、全体テーマである「主体的・対話的で深い学びの実現」につながるような保育実践を行う。

◎ ペットボトルのキャップを使って、友達や教師と楽しく遊ぶ。(対話的学び)

◎ 様々なペットボトルキャップで、自分なりに工夫して遊ぶ。(主体的学び)

③ 内容

- ・ ペットボトルキャップを使って遊ぶ。

(思考力の芽生え・豊かな感性と表現・健康な心と体)

- ・ 転がしたり、積み上げたり、くっつけたりして遊ぶ。

(協同性・言葉による伝え合い・思考力の芽生え)

④ 本時の活動

幼児の
つぶやき

教師の思い

振り返り
での発言

時間	環境設定	保育の実際
10:30	(ちゅうりっぷ組保育室)	○うちわシアター「はらぺこあおむし」を見る。 ○ペットボトルキャップのはらぺこあおむしを見る。 ○本時の活動について話を聞く。
10:35	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 仏様 P 机 ① </div>	◎ペットボトルキャップで遊ぶ。 ①遊び方について話を聞く。 ②色々なペットボトルキャップがあることを知る。 ③遊ぶ際に約束事について話を聞く。
10:40	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 机 仏 P 絵合わせ キャップ落とし くっつく 転がしコーナー だるま積み 自由遊びコーナー 【準備する物】 ・うちわシアター ・はらぺこあおむし ・キャップの絵合わせ ・くっつくキャップ ・だるま積み・机 ・キャップ落とし (予備の牛乳パック) (養生テープ・机) ・キャップ転がしの的 ・自由遊びコーナーシート </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">くっつく キャップ</div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">見て!くる くる回るよ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">うわーっ たおれる~</div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">なるほど!面白い 遊び見つけたね</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">キャップ ころがし</div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">トンネルが できた!</div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">次は、どう 展開していく のかな?</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">絵合わせ キャップ</div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">どれに しようか な?</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">交代交代で やろうよ!</div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">なんか音 がする よ!</div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">色分けした ら、遊びが広 がったね。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">何が入っているか 気づくかな。</div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">次は赤を めくるん だよ!</div> </div>
11:15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 仏様 P ① ① </div>	○片付ける。 ○本時の活動を振り返る。
11:25		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 2px dashed gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">磁石が入っ ていたよ!</div> <div style="border: 2px dashed gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">キャップが逃げ ていったよ!</div> <div style="border: 2px dashed gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">キャップが電 車みたいにつ ながったよ!</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 2px dashed gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">ころころ音 がした!</div> <div style="border: 2px dashed gray; padding: 10px; border-radius: 50%; text-align: center;">マラカスみた いな音がしたよ</div> </div>

【振り返り】

子どもにとって身近な材料のペットボトルキャップを使ったおもちゃは、子どもの手に収まりやすく扱いやすい教材であり、主体的・対話的で深い学びにつながる気付きや学びを促す教材であることが分かった。具体的には次のとおりである。

【主体的な学び】

- ・ 単純に転がすコーナーに初めは集中していたが、次第に他のコーナーにも目を向け始め、遊びが広がった。

【対話的な学び】

- ・ 年齢や経験に応じて遊びに違いがあり、周りを見て子どもなりに何かを感じ取り、自分の遊びに取り入れたり真似たりしていく姿があった。
- ・ 『キャップ転がし』では、中に入れた小豆やビー玉の重さや音の違いを感じて教師に伝える子どももいた。

【深い学び】

- ・ 中に磁石をはめ込んだ『くつつくキャップ』のコーナーでは、単純にくっつけることを楽しみながら、反発した際に「あれ？」と不思議そうな表情を浮かべていた。
- ・ 反発を利用して転がす遊びへと展開する子どももいた。磁石の概念を理解している年少児からは「磁石でしょう？」との発言も聞かれた。
- ・ 磁石への理解ができない年少少児でも、くっついたり反発したりする手応えに、不思議な表情を浮かべたり、何度もくっつけようと試行錯誤したりする姿があった。

個人テーマである「教材開発」の観点からペットボトルキャップの教材の様々な価値を見出せた。

- 正月遊びを経験した後でもあり、『絵合わせゲーム』に興じ、取った数を競ったり、どこにあったかを確認したりしながら慎重にめくる年少児もいて、時期的に興味を持ちやすい教材になった。
- 『キャップのだるま積み・落とし』では、数字への関心を高めたく数字シールを貼っておいたが、数字を意識して並べる年少児と、数字への関心は薄くキャップの色を同じに揃えて楽しむ年少少児との違いも見られ、少し手を加えることで気付きや学びを促すことができた。
- 接着するテープを変えたことで用途の微妙な違いに気付きに、遊びが展開していった。工夫次第で様々な可能性を秘めた教材であると感じた。
- 今回は、年少・年少少での実践であったが、年中・年長と年齢が上がると遊びにも変化が見られるのではないかとも思う。

「主体的・対話的で深い学び」という園全体の研究テーマを、自身の個人テーマである「子どもの気付きや学びを促すための教材開発」と結び付け、実際に開発した教材を使って保育を行うことで、より鮮明に子どもの主体性や協同性、さらには深い学びへとつなげることができた。今後も「個人テーマ」を追求することでさらに「園の目標」を実現させていきたい。

ウ その他の取組（保育者自身の主体的・対話的学び）

園全体の取組として、本園では、年間6回「わくわくタイム」という時間を設定し、各学年担任2人ずつが練習した読み聞かせや指遊び、パネルシアターなどを子どもたちの前で披露し、一緒に楽しむことで自らの保育技術の向上に努めている。



わくわくタイムは、教師としての専門性を生かし、子どもの豊かな感性や想像力を培うことをねらいとしている。

教師が持っているレパトリーを子どもたちだけでなく、教師間でも披露することで、お互いが学び合い良い刺激となっている。また、教師個人の保育がマンネリ化してしまう現状があったが、このわくわくタイムがきっかけとなり、新しいことにも挑戦してみようという意欲が喚起されるとともに、様々なジャンルでの学びの収穫があり、保育者自身の主体的で対話的な学びとなっている。

経験年数に関係なく、初任者はもちろんのこと、ベテランの教師にとっても個々の学びがあり、レパトリーが増えていくことで保育の質の向上にもつながり、まさに深い学びの場となっている。今後も継続させ、保育技術の向上に努めていきたい。

5 まとめ

本研究では、保育士一人一人が個人研究テーマを設定することで、研究を自分のこととして受け止め、目標を持ち主体的に取り組むこととした。まず具体的にテーマを設定することで、個々が何をすべきかが明確に見えてきた。それを一人一人が実践し、振り返るということを通し、研究（＝考え実践し振り返る）という一連の流れが大切なのだと実感するようになった。さらに、自分自身の取組でクラスが変容していく様子を目の当たりにするとともに、保育士自らの成長も実感するに至った。また、個々の研究と園全体のテーマを結び付けることで、共通意識を持って研究へ取り組んでいく意識が高まり、園の中に協働性が生まれるようになった。今後は自己評価をすることで、自身の成長を自覚できるようにしたい。

6 今後の課題

- 研究・研修においては、テーマの設定で終わらせないために、テーマに基づいた具体的な方策を考え、地道に課題解決に向かうとともに、その過程や成果を評価し、次につなげていくことが大切である。そのために、今後も自分自身の成長を自覚できるような自己評価について考えていく。
- 個人の研究ではあっても、互いの研究テーマや進捗状況について知ること、自分の研究の参考にできるように、共有する機会を設定していく。
- 特に、新規採用者の取組については、意図的・計画的に困っていることや悩みを出し合い、同僚の助言を得る場を確保する必要がある。